

## 平成28年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成28年6月28日（火） 午前10時30分から12時15分まで
- 場 所： 京都市立病院 本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹，黒田 啓史，桑原 安江，大森 憲，位高 光司，山本 壯太，  
能見 伸八郎，木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則  
事務局 阿部経営企画局次長，長谷川担当部長，大島市立病院事務局担当副部長，  
高橋経営企画課長，竹内職員担当課長，澤井管理担当課長  
北川京北病院事務長

### 1 開会

### 2 報告等

#### (1) 平成27年度 実績報告書（案）について

資料1に基づき阿部経営企画局次長から説明

- インシデントについて、医師からの報告が減っているとの説明があったが、どういうことか。  
→ 些細なことでも医療安全レポートにして提出するよう指示しているが、診療部からの報告は全体の約6%であり、全国平均の10%と比較して低い。医師の意識改善を図り、報告を増やしてまいりたい。
- 自己評価がA評価からB評価に変わった項目について、判断理由を伺いたい。  
→ 救急医療については、救急患者受入件数が減少したことが理由である。コンプライアンスの確保及び個人情報の保護については、年々求められるものが変化する中、より一層の取組強化が必要と判断したため、B評価とした。法人とSPCのパートナーシップの推進及びPFI事業における改善行動の実践及び検証については、26年度は新棟整備のコストを抑えることが出来たため、A評価としたが、27年度は、運営にかかる課題について、B評価としている。
- PFI事業で何が課題となっているのか。  
→ 例えば、経営支援業務で、経営支援のための各種データは提供されるが、データ分析の力が十分ではない。
- 戦略的な広報活動を行えるよう、広報の専門家などに相談してほしい。キャラクターももっと活用してほしい。  
→ 広報戦略は、PFI事業によりSPCが企画・提案することになっているが、十分ではない現状である。
- 職員の満足度調査について、市立病院・京北病院に勤めていることを誇りに思うか、という質問について、約3分の1の人がどちらでもないと答えていることには深い分析が必要だ。院内研修等を行い、職員の気持ちを盛り上げる取組を行ってほしい。
- 実績報告書では、経営上の課題，マネジメントの課題，人材育成の課題なのか経営上の本質的な課題が明らかにできないので、自己評価をつけるだけでなく、病院をよりよくするために資料を深掘りし、改善に役立ててもらいたい。

#### (2) 平成27年度財務諸表（案）について

資料2に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 増収・減益となったが、減益の要因は、人件費及び材料費の増加と、退職金の引当になると思うが、人件費の要因について、改めてお伺いしたい。
  - 看護師等の増加によるものが70百万円、年金の共済制度変更によるものが120百万円となっている。
- 長期借入金の金利はどうなっているか。
  - かつて5%以上の高金利で借りていた分については、時勢に合わせた金利に借り換えを行っている。
- ジェネリック医薬品の使用率はどうなっているか。
  - 80%を達成しており、診療報酬制度上もクリアしている。
- PCB発生時は京都市が事業主であり、PCBの処分費用は京都市が持つべきではないか。
  - 独立行政法人化当時に存在した権利義務関係は、全て法人が引き継いでいる。
- PCBの処理はいつどこですのか。
  - 平成31年までに現在計上している77百万円分処分する予定である。高濃度PCBについては北九州、低濃度PCBについては鳥取の処分場になると聞いている。

### (3) 監査報告について

資料3に基づき中島監事から説明。

- 売上面は心配していないが、欠損は1,300百万円まで膨れ上がっている。すぐにどうこうなるわけではないが、少し注意が必要である。

### (4) 経営状況月次（5月）報告について

資料4に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 紹介率・逆紹介率が増えているとのことだが、経営上どのような指標に関係してくるか。
  - 地域の医療機関との連携力を示す指標であり、紹介率については、地域の医療機関訪問など、様々な取組の成果が昨年度途中から現れてきている。加えて、4月から紹介状なしの患者の初診時選定療養費が増額されたこともあり、紹介患者中心の診療体制が進みつつあることが、紹介率上昇の要因である。この傾向を入院患者増につなげられるよう取り組んでまいりたい。
- 計画値を達成したら、黒字化するのか。
  - 一昨年の中期計画策定の中で定めた数値であり、診療報酬改定の影響は完全には見込めていないが、黒字を達成できる計画値となっている。一方で、黒字化には、収益だけでなく支出もおさえる必要があり、支出面の数値も精査してまいりたい。

## 3 閉会